

広域地域金融グループのパイオニアとして

当グループは、他の地銀に先駆け、県境を越えた広域地域金融グループとして経営統合を行い、本年の9月で5周年を迎えます。これまで「営業力の強化」「経営の効率化」「経営基盤の安定化」を3つの柱として取り組んでまいりました。経営統合にあたっては、「顧客目線に立つ」ことを重視し、お客さまにご不便をかけず、今までどおり安心してお取引いただくこと、北陸銀行・北海道銀行という二つのブランド力を活かしながら協調して、お客さまの利便性や満足度を向上させることを目的としております。この統合ビジネスモデルは、地銀再編の動きとして近年拡がりを見せております。

広域地域金融グループとしてのネットワークを最大限活用し、当グループが積極的に取り組み、成果をあげてきたのが、ビジネスマッチングです。平成11年より継続開催している「北海道ビジネスフォーラム」については、今回、北海道経済産業局の「地域力連携拠点事業」に認定されるなど、これまでの取り組みが評価されたものと考えております。

また当グループは、環日本海・東南アジアにおいて地銀随一のネットワークを持っております。多くの海外行政機関との間で経済交流協定を締結している他、海外金融機関等との提携により現地での金融機能をご提供するなど、サービスの充実に努めております。

平成21年3月に、コジノサハリンスクに邦銀では唯一となる駐在員事務所を開設、平成21年度中には、ロンドンにも駐在員事務所を開設予定です。

これらのネットワークを活かし、お取引先への現地情報提供や、海外進出支援など、地域金融機関らしいきめ細かなサポートを引き続き行ってまいります。

地域No.1のリレーションシップバンクとして

当社の経営理念の一つである「地域共栄」の精神のもと、「地域とお客さまからゆるぎない信頼と支持を得るベストバンク」を目指し、地域の皆さまとの親密なリレーションを築き上げてまいりました。経済環境の急激な悪化に対応するため、全国緊急保証制度による積極的な資金繰り対応や、休日経営相談会の実施、連鎖倒

産防止の相談窓口設置などにより、中小企業の皆さまへのご支援に力を注いでいる他、経営改善支援室・企業支援室といった本部専門部署のバックアップによる企業再生支援も強化しております。また、地域金融機関として、産学官連携強化による「新規事業の開拓」や「地場産業振興」への取り組みも積極的に行っております。

個人のお客さまに対しましては、落ち着いた雰囲気や資産運用や住宅ローンの相談を受けられる「パーソナル支店」の新設、ローン商品等の拡充、コンビニATMの拡大などにより、多様化するニーズにお応えしております。

人財・店舗の戦略的再配置

本部業務の効率化を図り、人員を営業店にシフトする他、バックオフィスを中心とした業務の共同化等を進めました。また、支店数については、店毎の役割づけを見直し、経営統合時の255店舗から平成19年3月末の246店舗まで整理した他、お客さまに極力ご迷惑をおかけしないよう、北陸銀行と北海道銀行の間でも営業の引継ぎや立地の補完を行い効率化を進めてまいりました。店舗の効率化については平成19年3月で目処がついたことから、リテール営業力強化のために必要な出店を再開しております。

人員については、パートスタッフの活用、新規採用の抑制などにより、営業力を維持しつつ、従業員の削減を進めてまいりました。従業員数は、平成17年3月末の4,506人から、平成19年3月末の4,289人までと、効率的な営業体制を構築してきたことから、それ以降は、競争力を高めるための人員増強やパートタイマー等の直接雇用を促進しております。

共同利用システム (MEJAR) への移行

システムの安定稼働に加え、お客さまニーズへの対応、取扱商品の増加、リスク管理の高度化から、システムコストは増加する一方の状況にあります。当グループは、横浜銀行との「3行システム共同」利用で合意、平成23年5月稼働に向けて準備を進めております。稼働後は、コストの増加を抑えながら、新商品・新サービスの導入を迅速に行ったり、機能の高度化により顧客利便性を高め

■ 経営統合の目的と戦略



1. 営業力の強化

- ◎広域ネットワークを活用したビジネスマッチングの取組強化
- ◎両行道内インフラ活用による企業周辺取引（取引先、従業員等）の取り込み
- ◎両行ノウハウ共有による提案力・ソリューション機能の強化

2. 経営の効率化

- ◎グループとして効率的・効果的な店舗ネットワーク構築
- ◎道内メールカー、バックオフィス業務の共同化
- ◎当社グループと横浜銀行による3行システム共同利用に向けたシステム構築

3. 経営基盤の安定化

- ◎広域営業を活かし、地域的・業種的に分散された資産ポートフォリオを構築
- ◎持株会社により、子銀行・子会社収益の変動を吸収し、安定資本政策実施
- ◎着実な公的資金の返済継続

られる他、現在各行の部門毎にあるサブシステムも含めた共同化の展開により、一層の効率化を目指してまいります。

経営基盤の安定化

リスク管理の徹底、企業再生の集中促進、お取引先への再建支援に注力してきた結果、開示債権比率は平成16年9月期の7.85%から、平成21年3月期の3.07%へと改善しております。

利益の着実な蓄積と同時に、劣後債発行、公募増資といった資本増強策の実施により、連結自己資本比率は、平成16年9月期の8.00%から、平成21年3月期の10.81%まで上昇しております。

平成20年5月には格付投資情報センター（R&I）による格付に

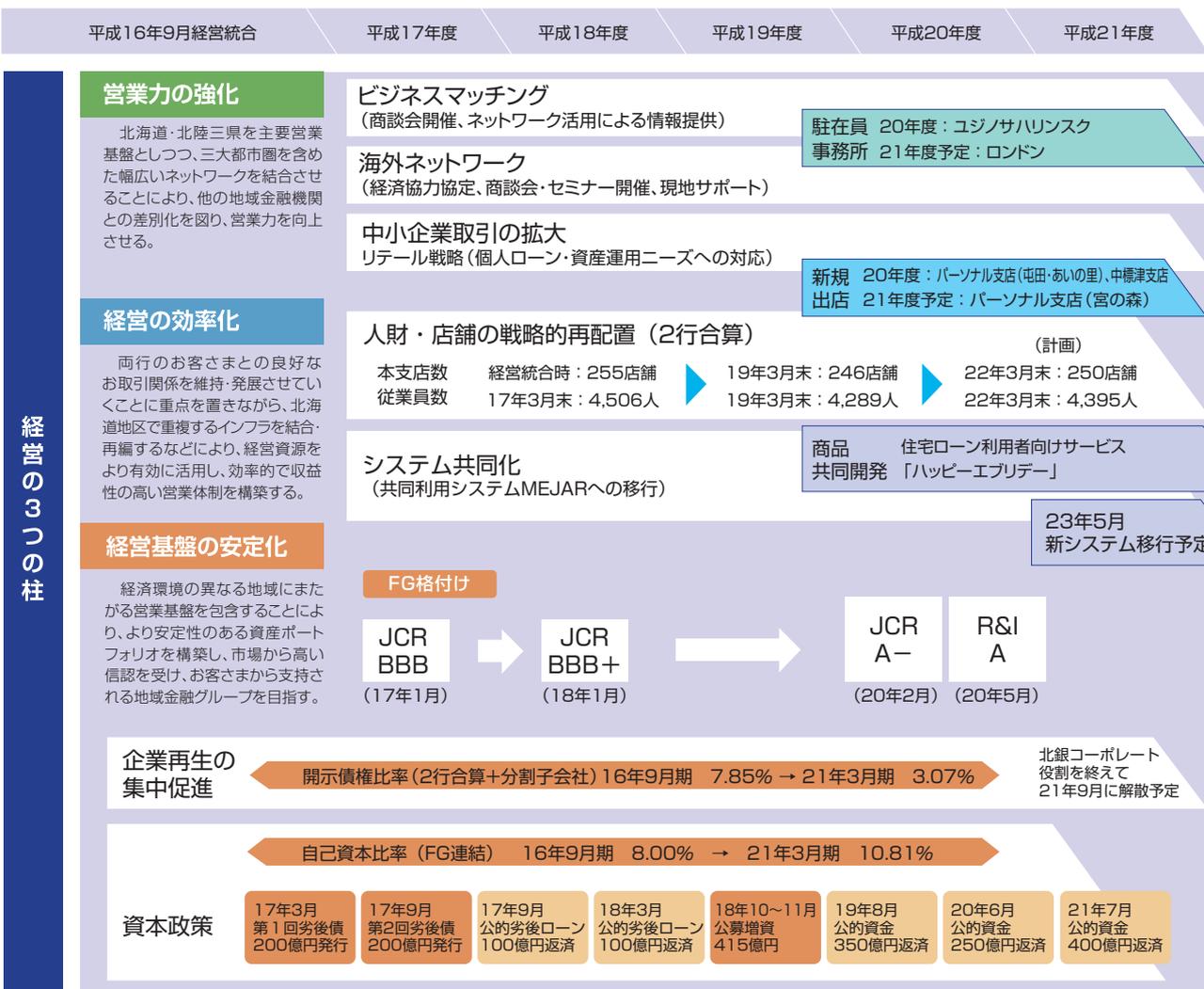
おいて、「ほくほくFG」「北陸銀行」「北海道銀行」が「A（シングルAフラット）」となり、当グループのこれまでの取り組みが評価された結果と考えております。

なお、配当につきましては、まだまだご満足いただける水準ではありませんが、ここまで段階的に増配を行い、平成20年度の配当につきましては、前年より50銭増配の3円とさせていただきます。

厳しい経済環境が続いておりますが、お取引先から信頼され、選ばれる真の「リレーションシップバンク」として、「地域のお客さまの繁栄に貢献し、ともに発展しつづける」ことを目標に、役員一同さらなる企業価値の向上に取り組んでまいります。

Hokuhoku Financial Group, Inc.

ほくほくFGのあゆみ



普通株配当実績（年間配当）

| 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1円 | 1円50銭 | 1円50銭 | 2円 | 2円50銭 | 3円 |